

神道夢想流 日本杖道会会報

平成二十年年度

上半期の主な行事

平成二十年も早いもので上半期が経過致しました。日本杖道会の一年間の行事は、明治神宮の奉納演武会に始まり、筑波山神社の奉納演武会で幕を閉じます。今年の上期の主な行事は左記の通りでした。

一月七日

明治神宮奉納演武会

(日本杖道会主催)

一月十四日

日本杖道会本部道場鏡開き式

(蔵脩館主催)

二月二十五日～二十七日

平成20年第一回武道合宿稽古会

(日本杖道会主催)

五月一日

第52回全国杖道大会

(神道夢想流杖道振興会主催)

五月二日

第102回全日本剣道演武大会

(京都大会)

(全日本剣道連盟主催)

第52回 全国杖道大会

神道夢想流杖道振興会主催の第52回全国杖道大会が、5月1日滋賀県大津市の体育文化館において催された。今回はいつもと異なり、杖道に貢献された故人二柱の追悼式が大会に先立って行われた。

総務副委員長の開式の言葉を頂いて、追悼の一連の行事修了後全国杖道大会の幕が開かれた。矢野庄一郎審判長の説辞を頂き、宮城県仙台市より参加の真野英明選手の力強い選手宣誓で、会場の雰囲気は杖道試合に一変し、終始心に残る大会であった。

第25号

平成20年7月15日

編集・発行

日本杖道会



故 米野光太郎 先生 84歳
神道夢想流杖道師範
東京都剣道連盟杖道部長
故 加藤 勝幸 先生 70歳
神道夢想流杖道師範
大阪府剣道連盟杖道部長

◇追悼式次第第◇

一、追悼の言葉
参会者二百名を代表し、神之田常盛会長の吊辞。

二、献花の儀
大会実行委員長小嶋高昌以下全員で菊の花を祭壇に供えて冥福を祈願。

一、追悼演武
神道夢想流杖道
打太刀 神之田常盛 師範
仕 杖 大里 耕平 師範



↑追悼演武
→祭壇に献花する大会参加者
神之田常盛師範と大里耕平師範

第52回 全国杖道大会に寄せて

青森県剣道連盟 杖道部部长 藤森源一

杖道をこよなく愛し、杖道の修行を通して「豊かな人間性を養う」換言すれば「高い徳性と豊かな知性、そして強執な体力」この三大要素を「大義」としている神道夢想流杖道

振興会主催の半世紀を越える、第52回全国杖道大会に大きな期待と、最高の師と仰ぐ神之田常盛先生にお会いする喜びを胸に秘め乍ら会場である滋賀県体育文化館に足を運んだ。

会場に入った瞬間、一番先に目に入ったのは、正面に掲示された故米野光太郎先生と、故加藤勝幸先生の追悼式の文字でした。

私は心の中で、日本杖道界のトップクラスであった両先生の追悼の儀式が、今日、この大会場で催行される。そして、武道家の最大の倫理である先人を敬仰する思想を、きちんと企画し、実践する神道夢想流杖道振興会の姿勢に、心からの感動を覚えました。

引き続き厳粛に執り行った献花の儀、そこでは大会参加の先生方、選手の皆さんが、両先生の御霊に手を合わせ「先生、先生からご指導を受けた私は本当に幸せでした。これからも、杖道のあるべき姿を修行し、一生懸命頑張りますので、ごゆっくりお休み下さい」と心に誓っている敬謙な姿がそこにありました。

次に試合前の大会を盛り上げ、士気を鼓舞する模範演武が、本大会会長の神之田先生と大会総務委員長の大里先生により披露され

ました。参加者一同は威儀を正し、両先生の一分の際も無い理合と格調の高い風格と品位更に、会場を庄する裂帛の気合に、場内のムードが一段と高まりました。

演武を終え、正面に礼した時、会場から称賛の割れんばかりの大拍手が沸き起こりました。このような素晴らしい最高の名人技は、東北の私達にとって数少ない貴重な体験であり、改めて今回この大会に出席して本当に良かったと実感しました。

ともあれ、杖道の入口に入ったばかりの私にとりて、斯道の真髄をこの目で見た感動は終生忘れることのない大きな収穫と思考しております。

引き続き本大会メインイベントの「各段別試合」。出場選手は日頃鍛練した技を十二分に発揮し、胸を張って堂々と演武してまいりました。そこには、通常の県別対抗みたいな気負いは全く無く、同じ武道修業している剣友同志の年一回の競争する、そのような相互の友情と親睦が、自然に良い形で見え隠れし、拝見して本当に気分が良い試合だと受けとめました。

この様相は、神之田先生が身命を賭して50余年にわたり指導してきた「俱に手を携えて斯道発展に

邁進しよう」この高邁な思想が日本はおろか海外まで浸透している証左であり、改めて先生のすばらしい人間性と、優れた武道家としての偉大さに、感動を覚えた次第です。

そして、試合で汗を流した後、私が多年にわたりご指導を受けてきた大会審判長の矢野庄一郎先生から、懇切丁寧な講評があり、次に全員で神道夢想流「杖道の歌」の大合唱。次いで審判主任の篠原武先生音頭により声高らかに萬歳三唱。

最後に大会会長の神之田先生より「高段者の諸先生、各地から参加された選手の皆様のご協力により、盛大に而も事故も無く大会を終了する事ができました。大会会長として、心から厚くお礼を申し上げます」との謝辞があり、全日程を終了しました。

終わりに神道夢想流杖道振興会の益々の発展と本大会参加

の諸先生方、並びに選手の皆様のご多幸とご健勝をお祈りし、拙いペンを置きます。

以上、浅学非才で起承転結もままならないまゝですが、報告を終わらせて頂きます。有り難うございました。



第52回 全国杖道大会入賞者

	優勝	準優勝	第三位	敢闘賞	特別賞
段外の部	宇野 沙織(大阪)	平田 昌弘(大阪)	貴田 晃平(大阪)	谷本 龍太(大阪) 河野 史也(鹿兒島) 古賀 悠紀(兵庫)	西尾 茂富(大阪)
初段の部	竹本 満(大阪)	村岡 友恵(神奈川)	吉村 信広(大阪)	示野 泰広(愛媛)	
二段の部	老松 克博(大阪)	老松美由紀(大阪)	熊本 達郎(神奈川)	森 秀敏(福岡)	
三段の部	中村美代子(東京)	石田 博美(神奈川)	後藤 順子(埼玉)	市村 國子(東京)	山本 逸郎(滋賀) 住田 克己(東京) 山脇 一馬(福岡) 松本 利雄(三重) 松本 健(愛媛) 佐々木 純(大阪) 白石 幸(大阪) 白石 武志(大阪)
四段の部	木樽 孝(神奈川)	奥本 敏郎(大阪)	松下 俊夫(京都)	真野 英明(東京)	
五段の部	宮田 勝一(福岡)	越智 康久(福岡)	矢口真知子(東京)	平野 喜孝(神奈川)	
六段の部	宮脇 誠吾(広島)	木村 通男(兵庫)	時任 晴美(神奈川)	河崎 清二(愛媛)	
七段の部	上田花代子(東京)	坂上 亨(大阪)	木樽 銀治(神奈川)		福岡 末吉(滋賀) 山原 繁雄(東京) 高原 繁雄(兵庫)

